



PTA会報

蒼天の翼

第33号

PTA 調査広報委員会

2013. 3 . 1

題字 2年普通科 千葉明美



～おくせず、あせらず、たゆまず～



PTA活動に対する御礼

PTA会長 千葉 弘之

春まだ浅い今日この頃ではございますが、日ごとにごその気配が感じられるようになって参りました。会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より本PTAの活動に對しましては、事業運営にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

また、卒業を迎えられる生徒をお持ちのご家庭の皆様におかれましては、三年間の高校生活を終えられ、晴れの門出を迎えられたことに心よりお慶び申し上げます。

「本物と言われるものや、一流のものに接することが大切である」とは、元巨人軍の桑田真澄投手の言葉ですが、まさに本校は日常的に一流のことを営んでいる場面があると思います。普段は気がつかないと思いますが、知らないうちに身につけていたというように卒業後に気がつくことが沢山あるでしょう。校長先生はじめ諸先生方には、授業はもとより、部活に、課外に、進路指導に、生活指導に、温かいご指導をいただき本当にありがとうございます。

さて、時代からは生活全般に渡って大きな変化を求められていると言われております。震災の影響のみならず、少子高齢化や長引くデフレ不況など本校を取り巻く環境は以前のようなではありません。そのような中で我々は希望を失うことなく時代に順応し、次の世代にバトンタッチをしなくてはなりません。PTAの活動は学校を中心としたコミュニケーション作りであると思えます。三年間という短い期間ではありましたが、卒業後も互いに声を掛け合い、若き世代が活躍できる土台となるようPTA活動を推進して参りたいと思えます。

本PTAでは、東日本大震災で特に被災の大きかった高田高校への支援を行ってきました。お陰様をもちまして、昨年九月より新校舎の建設が始まり、体育館、実習棟などを建設する計画で、第二体育館には防災対応施設も設置する予定のことです。来年の完成を目指しています。これからも震災を忘れることなく交流や支援が継続されるよう願っています。

末筆になりましたが、本会の活動に對してご尽力いただきました皆様に感謝し、本校の益々の発展と、若き世代の活躍、皆さんのご多幸をお祈りいたしましてご挨拶いたします。



可愛くば、五つ教えて三つほめ、 二つ叱つてよき人とせよ 〜二宮尊徳翁の教え〜

校長 高橋 勝弘

先日、ある新聞に次のようなコラムが掲載されていました。

「昨秋、人が何かを学ぶとき、褒められた方が記憶に定着し、効果的に学習できることを自然科学研究機構生理学研究所(愛知県岡崎市)が証明したという発表があった。パソコンのキーボードがある順番に打たせ、正確に素早く入力するテストを行ったところ、褒められたグループの入力はそれ以外のグループより向上したという。

このようなモチベーション理論は、米国では半世紀前から実証と理論研究が進んでいる。その基礎理論は、人間を含む動物の行動が、その行動をとる前提条件よりも、行動直後の結果に影響を受けるという内容だ。日本でも幼児や発達障害児の教育の他、企業の社員教育にも応用されている。今も企業で怒鳴りつける上司がいるが、逆効果の方が多い。当然、体罰は論外である。(後略)」

教育の基本は「ほめ育て」です。これは何歳になっても同じです。習い事の教え上手な人とは、「ほめ上手」な人のことをいいます。若いも若きもほめられれば嬉しいものです。もつとやろうとするも

のです。特に幼い子どもに教える時は、ほめるに限るのです。尊徳翁は「三つほめて、二つ叱れ」と教えていますが、一切叱らずにほめても良いくらいだと思っています。

しかし、尊徳翁はほめるだけでは、そのほめられることの値打ちがわからない。だから二つは叱りなさい。二つ叱ることによって、ほめられることの値打ちがわかる

といっています。人が伸びていくには、ほめることと叱ることの両方の養分が必要なのです。きちんと叱れない人に、しつかりほめることはできません。叱らない教師や上司は、責任の半分を放棄しているのと同じです。

子どもを優しい愛情を持って大切に育むことは親の一番の役割ですが、「大切に育むこと」と「甘えを許し野放図に育てること」とは決定的に違います。電車の中で騒いだり店内で走り回ったりしている子どもを叱れない親をよく見かけます。親は「騒いだらだめですよ」と気迫のない言葉をかけるだけで、子どもはお構いなしに騒いでいる状態です。叱れなくなつた親は、果たすべき役割を放棄しているにも等しいと思います。その

ような親に育てられた子どもは、将来困難を乗り越える知恵も力もなく、社会に迷惑をかけてしまつたりすることに繋がるのではないのでしょうか。

本気で叱る、本気を言葉にする。現在の親を初めとする大人たちに求められているのはこの一点ではないのでしょうか。子どもを育てていくうえで、最も重要なものは、人様に迷惑をかけること、危険を回避することです。良いことと悪いこととの判断をつかせるためには、本気でほめて、本気で叱つていかなければいけないと思います。

ただし、叱ることと怒ることの混同はいけません。叱るのは理性に基づく行為ですが、怒るのは感情に任せられた行為です。大きい声で叱っていると、感情が高ぶつていつの間にか怒つてしまいます。どこまで子どもの心に深く善悪の判断基準が刷り込まれるかは、ひとえに大人達の「本気度」にかかっているのではないのでしょうか。

本校の目指す学校像である「生徒一人ひとりを大事にする教育」を実践するために、尊徳翁の教えを胆に銘じ、教育活動に取り組んでまいります。

二月七日(休)、千厩町マリアーヂュにおいて第三回PTA役員会が開催され、最初に、会務・事業・中間決算報告が行われ確認されました。

第三回PTA役員会開催

調査広報・母親・行事日程・平成二十五年PTA役員選挙等の提案・確認が行われました。

また、年度内に学校の公衆電話の設置をすること、監査の際には学年理事も立ち会うことが確認されました。

震災支援事業

高田高校野球部 100キロボランティアアウォーク

高田高校野球部の毎年オフの恒例行事。平泉町から大船渡市の高田高校仮校舎まで約100キロの道のりを、二日間にわたつてゴミを拾いながら歩き通す「100キロボランティアアウォーク」が十一月二十三日(金)、二十四日(土)に行われ、千厩高校PTAの震災支援事業の一環として支援しましたので、報告します。

〈佐々木明志監督より〉

震災後、行事を再開することは難しいと感じていた。生徒の中には津波体験を思い出すため被災エリアに入ることに自信のない生徒もいたためである。震災後に野球部員による陸前高田でのボランティアも、部員と面談を実施したうえで、被災エリアのボランティアと被災していない仮設住宅でのボランティアと分けて実施した経緯もある。しかし、震災で受けた支援に対する恩送り(恩送り)・自分が受けた恩を他の人にするということにより、人の輪が広がる)をしたという生徒の思いとスタッフの思いがマッチし、実施した。集団で歩くことの安心感や陸前高田市を

〈開催の経緯〉

この行事は、高田高校野球部の佐々木明志監督がメンタル面の強化の必要性を感じ、メンタルトレーニングとは別に、「他のチームがやっていないことをやりきつた」という自信を植え付けさせるために実施したもので、今回で五回目。千厩高校はスタートからゴールまでの中間地点ということ

平成二十四年度

PTA講演会

PTA講演会が、十二月十七日(月)の午前に第一体育館で開催されました。

今回は、「震災復興を願うとともに、『海と共に生きる』考えのもと、自然環境を大切にする姿勢や考え方を涵養する。」ことを目的とし、講師として室根町十二区自治会町の三浦幹夫さんに『森は海の恋人』の紹介とこれまでの協力活動のお話をいただき、次にNPO法人『森は海の恋人』理事長の畠山重篤さんから『森は海の恋人』心に木を植える」という演題で講演をいただきました。

【生徒の感想(抜粋)】

●畠山さんの話を聞いて、一番印象に残っていることは『ミルフィーユ』の話です。ミルフィーユは全部一気に食べるから美味しいので

あって、パイを食べてクリームを食べてつてなるとまずい。つまり、物事は全部を知ると美味しいものが見えてくる、ということが一番心に残っています。

(1E 須藤亜希乃)

●畠山さんの勉強の話で、「人生は勉強の仕方によっては楽しくなる。」という言葉が印象的でした。

(1F 櫻井 翔太)

「興味から広がる世界」

海で働く漁師さんが、山に木を植える。「なぜ？」と疑問に思いますが、畠山重篤さんがカキやホタテその他の海の生き物たちを育てているのは、実は山の木々の落ち葉からできる腐葉土から流れ出てくる植物プランクトンだと確信を持ったから、二十三年前から室根のひこばえの森に落葉広葉樹を植える『森は海の恋人』運動を続けられています。

また、川の真水と海の塩水が混ざり合うところを「汽水域」と呼び、多くの海の生き物たちはここで赤ちゃん時代を過ごす、とても重要な場所なのだそうです(だから、私たちは生活排水中の化学物質の量を少しでも減らすことを意識しなければ)。大きな大きなサ

イクルを感じます。世界は神秘に包まれています。

畠山さんは最後に「物事はいろんなことを学んでつないでいくと、思わぬ世界が見えてくる。お菓子のミルフィーユは別の種類のものが層になっているからパクッと食べた時混ざり合っておいしさが倍増する。理系と文系をつないでみて、そして知識をたくさん学んでください。」と結ばれました。自分の興味の湧く方へどんどんあちこち「行って」みてください。そこにあなたが生まれてきた意味が隠されているから。無駄なもの一つもなくて、いつか集大成される時がくるから。ワクワク、ドキドキを追いかけていったら楽しい人生になるから。そんなことを感じさせられたひとときでした。

(一般・千葉 正子)



NPO法人『森は海の恋人』理事長 畠山重篤氏

●自分たちが今こうして魚や貝を食べられるのは、海だけではなく、森のおかげでもあることを知ることができた。けれど今は、その森が減少しているというのが現状で、自分たちの世代が森の樹々を守っていかなければならないと強く思った。(1A 小澤 大雅)

歩いてみたい思い、住み慣れた地のゴミ拾いこそ意義があると感じた。今回はスタートから雨模様。平泉から一関を経てからの道のりはアップダウンがありきつい。ひたすら歩き、ゴミを拾い、時に走る。すぐに全身から汗が噴き出す。1キロを歩くのに十分間が基本的なペースだからかなりの速足。30キロを過ぎると疲労の色が濃くなる。上り坂はきつい。下り坂は楽そうに思えるが、足に体重がかかって負担が増える分、もつときつい。歩道の端など、わずかな段差さえも乗り越えるのが難しくなる。千厩高校に到着したのは十八時。体は冷え切っていた。また、筋肉痛で足を引きずっている。それでも生徒の表情は明るかった。

合では試合用ヘルメットを寄贈しました。そして、今まではボランティアウォークの宿泊施設として、セミナーハウスを開放していただけでしたが、今回は食事代・寝具代を支出しました。

〈千高生は！〉

千厩高校では昨年の六月に三年生の希望者、八月には一年生全員が陸前高田市でボランティア活動をしました。高田高校野球部の100キロボランティアウォークは来年度も継続予定です。今までは高田高校野球部の独自の行事でしたが、来年度は千厩高校生も一緒に活動できないものかと考えています。一緒に活動することにより、被災した生徒たちがこんなに頑張っている、自分たちも頑張らなければならないと千厩高校生にも感じてもらうとともに、行動を起こすことが大事なんだと感じてもらいたいです。

先に着いた者も全員がそろおうのを待って全員でゴールテープを切る。



〈千厩高校PTA〉
今回、千厩高校PTAが震災支援事業費として三十万円を予算計上したことに



より、八月の練習試合

卒業に寄せて

はなむけの言葉



三学年主任 藤原 良男

卒業生のみなさん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

月並みではございますが、三年前、入学式から今日まで、「アツ」という間でした。千厩高校で過ごした三年間は、いかがだったでしょうか。

毎日が戦争。これは、学校に送り出していただく保護者の方々も同じ状況だったかと思えます。今となって思えば、生徒諸君は間違いなくこの三年間で成長しました。いい意味で自己主張し、自分の考えを表現する姿。家庭内と学校、外部での姿はまったく異なるものを見せてくれているはずです。

今年度は、進路決定の大切な学年でした。上半期九月までは就職戦線、その後下半期十一月までが推薦入試に向けて、センター試験を経て二月までは大学一般入試。生徒・先生一年間フル稼働でした。その中で、心身ともに不安に打ち勝つ支えはなんだったのか。私個人は「ことば」先人の残した名言でした。一例をご紹介します。

金八先生は、こんなことを生徒に話しかけています。

「正」の字は、「一」と「止」で作られています。「どうか一つ止まって判断できる人間になって下さい。」と。ここで、

自称、平成の金八先生こと、小生曰わ

く「自分で決めた一つのことを途中で立ち止まるな。」と。またこれを逆手にとつて、「二つのことで悩むときは、まず立ち止まり、相談、じっくり考えよう」と。

人は、思い苦しむと、誰かにすがり、苦しさを訴えかけたくなるものです。それが宗教であったり、コトバであったり、読書であったり、人それぞれの発散手段があるものです。

「卒業生諸君の将来は前途洋々」と言いたいところですが、「社会の荒波が待ち構えているよ。心せよ。」と言った方が、人生の先輩としては正しいアドバイスかと思われま

す。今に集中。これからは、ともに一社会人として共通の目標にむかって精進して行きたいものです。

最後になります。千厩高校でともに三年間過ごせたことも、何かの縁。私の生まれ育ったこの地で、後輩たちと過ごすことが出来たことをうれしく思います。

今後、卒業生の兄弟姉妹、後輩諸君も千厩高校で活躍し、さらなる飛躍を祈願し、はなむけの言葉といたします。

三年間、ご支援、ご協力、誠にありがとうございました。

社会の一員として

三年A組保護者 小野寺忠浩(宗一郎)

皆さん、卒業おめでとうございます。三年間送り迎え、お弁当などお父さんお母さんには「ありがとう」の一言を伝えましよう！

我が家では、娘二人と今度卒業する息子で、千厩高校に八年間、毎日妻が送迎しました。本当にご苦労様と思っています。

これから皆さんは、進学・就職と今までと違った生活になり、一人一人がその環境の中で責任を持った行動を取らなければいけなくなります。今まで、先生や親に頼っていたことも自分で考え行動するには、これまでの家庭や学校生活の中で学んだ、礼儀や知識・技術などを十分に発揮し社会の一員として認められ、岩手県の千厩高校卒業生とし誇りを持ち、大人として楽しく、有意義な人生を送ってください。

諸先生・PTA役員の方へ、生徒・保護者それぞれへの気配り配慮や思いやりが、十分に感じられるこの八年間でした。心より感謝申し上げます。

卒業生に願いを託して

三年生B組保護者 坂本 健(二彩花)

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。親の立場としても、子どもと共に成長してきた三年間だったと振り返っています。私たちが親が高校を卒業した時代は経済の成長期、その後バブル経済も経験し、比較的いい時代でした。しかし、今をしてみると、日本経済は衰退し震災での追い打ちで厳しい時代を迎えています。昔の考えは今の時代には合いません。私自身も三年前は昔の良き時代の考えでしたが、高校開催の講演会、先生方の説明会を何度か聞いて、自分の考えは古い、時代にマッチしないことを思い知らされました。進化論を唱えたダーウィンは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いのか。そうではない。最も頭の

いいものか。それでもない。それは、変化に対応できる生き物だ。」と唱えました。

時代は弱肉強食、変化に敏感でなければ時代を乗り越えられないことも事実です。この先どんな時代が待ち受けているか誰にも分かりません。ただ時代には敏感で変化に対応し、厳しい時代も乗り越えて欲しいと願います。ただ一人だけではなく、この三年間を乗り越えてきたように、チームワークで乗り越え、弱い立場の人も思いやれる優しい人間であって欲しい。そんな願いを君たちに託します。



幸多かれ

三年C組保護者 小山 浩美(美沙貴)

卒業、おめでとうございます。一生の中の短い三年間でしたが、有意義に過ごせましたか。

これからの進学や就職に非常にプラスになることがたくさんあったはずですが、辛い事、大変な事、千厩高校での生活や学んだ事を思い出し、乗り切って行つて下さい。今までお世話になった人たちに感謝し、これからお世話になる人たちに敬う気持ちを持ちましょう。

我が家では、子どもたちのお陰で楽しく参加できたPTAも卒業になります。先生方ありがとうございました。

これからの皆さんの未来に「幸多かれ」と祈っています。

●お世話になった先生より● 人生の宝探しの旅へ



小野寺 弘行

卒業生、保護者の皆さんご卒業おめでとうございます。特に保護者の皆様には、この三年間、様々な感慨があるのではないのでしょうか。かくいう私も今年度をもって卒業となります。最後の一年をどのように過ごすかと考えたとき、私にとっての3年生生諸君は大変身近な、愛おしい生徒でした。特に授業では毎時間思いつくに残る事ばかりで、感謝の気持ちでいっぱいです。餞として、私のこれまでの宝物の中から二つの出会いについて紹介し、贈る言葉とします。

本校の最初の印象、「思えば、5年前の3月24日、千厩高校への赴任が決まり、その打合せで初めて本校を訪れたときの事。いささか早く着き、まだ誰もいない会議室に通された私は、窓越しに展開されている光景に目を奪われました。そこには応援団生徒十数名が、仁王立ちの顧問の指導のもと、一糸乱れぬ行動で練習を行っていたのです。3月24日といってもまだ肌寒さが残る季節です。それに加え、その張りつめた雰囲気、第三者の感情など入り込む余地等ないほどの緊迫感が漂い、今時、こんな学校(新年度行事を

迎えるための準備とはいえ、その意識がすばらしい)がまだあるのかと自分の目を疑いました。そのとき、私はこれからこの学校に、生徒達に何をしてあげられるのかと、強く迫られた思いに駆られました。このときの衝撃が、本校で5年間頑張れた何かだったことは間違いありません。」

野球の話、「今から8年前、平成16年の秋季東北大会準決勝、ダルビッシュ投手を相手に、この試合に勝てば甲子園出場当確という大事な試合に惨敗した思い出があります。ダルビッシュ投手は、私立の強豪校から30校とも50校ともいわれる勧誘を受けました。高校の時は様々な憶測も飛びました。しかし、東北大会の私たちの目の前で投げている彼は、怪物としか例えようがありませんでした。しなやかなフォームから繰り出される150kmのストレートもそうですが、変化球で逃げるような打球を絶対しない。そういうナイスガイでした。結果、1安打に抑えられての完敗。救いはうちのエースが4番ダルビッシュを3打席3三振、全てストレートの空振りに捕ったことでした。いまや誰もが認める大リーガー、テキサスレンジャーズのエースであるダルビッシュ有。高校野球公式戦で対戦できたのは私にとっての生涯の宝物です。」

さて3年生生諸君、これからの人生に高い目標を掲げ、すばらしい出会いに会えるよう、自分自身の宝物探しの旅に出てみてはいかがでしょうか。

可能性を信じて

三年D組保護者 佐藤 勲(千夏)

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。入学してから今日まで、皆さん一人一人に、色々な出会いがあったと思います。その全てが、あなた方が手に入れた財産です。卒業して皆さんはそれぞれの進路に進むでしょうが、皆さんが進む道の先に、また新しい出会いが必ずあります。あなた達が困った時、迷った時は、今まで出会った人達、これから出会う人達があなたの力になってくれます。皆さんがこれまで過ごしてきた時間よりも、遙かに長い時間をこの先過ごしていく事やしていつて下さい。何歳になろうと自分が持つ可能性を信じて、色々な人に会い、色々な物を見て、色々な事を学んで下さい。無理に大人になろうとはせず、人として成長していく事を心から願っています。最後になりましたが、今までご指導頂いた校長先生をはじめ、謝辞申し上げます。本当にありがとうございます。

笑顔と感謝の心

三年E組保護者 佐藤美智代(要)

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。緊張してうまく声が出なかつた応援歌練習、楽しかった修学旅行、クラブ活動やボランティア活動、進路へ向けての取り組み等、沢山の事を学び、成長し、頼もしくなりましたね。



四月からは、それぞれの進路に歩み出しますが、希望と不安が交差している事と

思います。

これから先、色々な事があると思いますが、困難は、自分を強く逞しくします。「おくせず あせらず たゆまず」自分の目標に辿り着くまで、笑顔と感謝の心を忘れず頑張ってください。

最後になりましたが、これまでご指導いただきました、校長先生をはじめ諸先生方へ心より感謝申し上げます。

夢をかなげよう

三年F組保護者 小山 智子(翼)

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。高校生活はいかがでしたか。

三年間の中で得たものは、たくさんあったことでしょう。学力もありますが、部活動を通しての忍耐力や仲間との絆は、とても大切なものです。指導いただいた先生方、陰ながら支えてくれた保護者の皆さんへの感謝を忘れないで下さい。これから社会に出て困難にぶつかった時、一緒に過ごした仲間が存在がきつと力を与えてくれるはずですよ。また、これから出会う人も大切にしてください。



社会に出てからも大事なものは「健康・挨拶・常識」です。今までは親に見守られ、言われて身につけてきた事です。これからは自分自身で守っていかなければなりません。

♪あなたの夢をあきらめないで熱く生きる瞳が好きだわ
負けないように 悔やまぬように
あなたらしく 輝いてね♪
(「夢をあきらめないで」岡村孝子)
自分らしく頑張ってください。

生徒の活動

産業技術科

過去最多 8名合格

本校初、1年生の合格者が3名誕生!!

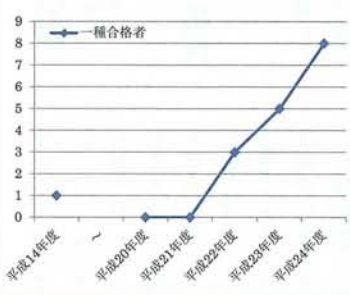
平成24年度 第一種電気工事士

十二月九日(日)、全国十二試験地、二十五試験会場で第一種電気工事士技能試験が実施されました。本校からは、筆記試験に合格した九名が受験し、過去最多となる八名が合格しました。うち、本校で初となる一年生の合格者も誕生しました。県内には、工業系の高校が全日制・定時制合わせて十七校あり、およそ四千人が工業の教育課程を学んでいます。そのなかで第一種電気工事士に合格する生徒は、年間一六〇名ほどのため合格者の割合は全体の四%となります。

当日は冬型の気圧配置が強まり、強風と積雪のため高速道路が通行止めになるなど大荒れの天気となりました。しかし、修学旅行帰りの二年生も早めに参加し、加えてバスの乗務員さんが早くから待機してくださるなどたくさんの方々の協力の下、無事に会場へたどり着くことができました。



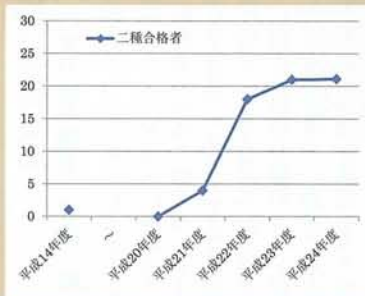
第1種電気工事士合格者



第一種電気工事士合格者の推移



第2種電気工事士合格者



第二種電気工事士合格者の推移

平成24年度 第一種電気工事士 2年連続 21名合格

以前は、少数の合格者たちほど県外の企業を希望することが多く地域に残すことができない傾向にありました。近年では有資格者となり地元に残りたいという生徒が増え、こうした意識の変化に伴い合格者の増加へとつながっています。生徒たちは、気持ちだけでなく経済的にも自立しようと気概を見せているところです。

6大会で通算5個のメダルを獲得!!

十月二十六日(金)、二十七日(土)、黒沢尻工業高校を主会場に旋盤作業・電気工事・電子回路組立・化学分析・木材加工・測量の六部門に十二校、参加選手七十一名で実施されました。

本校からは電子回路組立部門に二名が出場し、銀メダル・銅メダルを獲得しました。来年度は、同部門の東北大会が岩手県で開催されるため生徒、職員共に二年ぶりの東北大会出場と入賞を目指してまいります。



左から
 佐藤 村上 佐藤 島山
 潤也 太人 (1年) (2年) (1年) (1年)
 知空

平成24年度
 高校生ものづくりコンテスト
 2012 岩手県大会

〈電子回路組立部門〉
 第2位 産業技術科2年 村上 翔太
 強さの秘訣はチームワーク

本校は、ものづくりコンテストにおいて毎年のように入賞を果たしています。その秘訣は、チームワークです。例年、後期中間審査が終わると一・二年生の希望者四・五名でチームが構成されます。一ヶ月間に渡る徹底した基本訓練を終えると代表選手が行われ、出場選手とサポート選手が決定します。代表選手に敗れたサポート選手も大会まで同じように練習を積み、さらに大会の会場では工具展開やプログラミング作業のための開発環境構築を行ってくれます。このように誰が出て入賞できるように訓練を積んだ仲間がサポートしてくれることが不安を取り除き、安心感と集中力を与えてくれます。

私は、前回の大会において単純なミスをしてしまい五位という結果に終わってしまいました。今回は例年よりも早く練習を始め、苦手なプログラミングを重点的に練習することができました。これも後輩三人とチームを組み、お互いに高め合うことができたからだと思います。結果として二位のため東北大会出場はなりませんでしたが、学年を超えたチームでの取り組みは今後も続けて欲しいです。

第3位 産業技術科1年 佐藤 直人

過去6年間の成績

| | |
|------|---------|
| 2007 | 第3位 |
| 2008 | 入賞なし |
| 2009 | 第3位・第4位 |
| 2010 | 第1位・第4位 |
| 2011 | 第5位・第6位 |
| 2012 | 第2位・第3位 |

平成24年度卒業表彰

1 学校表彰

- ◎皆勤賞(43名) 皆勤賞は、在学期間中欠席、遅刻、早退、欠課が皆無の者
- 普通科(A組) 小野寺宗一郎・小野寺拓也・佐藤 和希・佐藤 優
菅原 健・星 政輝・吉田 秀平・熊谷 彩花
熊谷 菜里・佐藤 彩美・千葉香南子
- (B組) 佐藤 洋人・佐々木小姫・佐藤夏奈子・橋本和香奈
- (C組) 瀧澤 健太・岩淵 真紀・千葉 汐莉・畠山 美栄
藤村 美希・佐藤 達也・小山美沙貴・佐藤 美和
- (D組) 伊藤憲一朗・伊藤 誠・千葉 幸多・西城めぐみ
佐藤 千夏・菅原 千紗・鈴木みき子・千葉 友美 (31名)
- 生産技術科(E組) 熊谷 和成・及川 知美・千葉 由佳・岩淵 理恵
菅原 千加・藤代 真美・藤野 亜耶 (7名)
- 産業技術科(F組) 小山 翼・小山 伸人・熊谷 正樹・佐藤 裕太
高橋 拓巳 (5名)

◎部活動奨励賞

| 大会名及び業績 | | クラス・氏名 | |
|---|----|--------|----------|
| 箏曲部 第36回全国高等学校総合文化祭 日本音楽部門 出場 | 3A | 熊谷 文花 | 3A 千葉香南子 |
| | 3B | 佐々木小姫 | 3B 千田あかり |
| | 3E | 関根 晴夏 | |
| NIE 日本新聞協会主催 第3回「いっしょに読もう! 新聞コンクール」 奨励賞 | 3B | 小野寺佑史 | |
| | 3B | 石川 千愛 | |
| | 3C | 佐藤 美和 | |
| 農業クラブ 平成24年度岩手県学校農業クラブ連盟大会 情報処理競技 最優秀賞 | 3E | 矢尾板祥之 | |

2 教育関係諸団体表彰

- ◎財団法人産業教育振興中央会長賞 生産技術科 岩淵 郁美(3E)
- ◎岩手県産業教育振興会長賞
生産技術科生産科学コース 矢尾板祥之(3E)
生活科学コース 千葉 静香(3E)
- ◎全国農業高等学校長協会会長賞 生産技術科 藤野 亜耶(3E)
- ◎岩手県学校農業クラブ連盟賞 生産技術科 矢尾板祥之(3E)
- ◎文部科学省後援全国高等学校家庭科技術検定1級(食物・和服・洋服)
3種合格 生産技術科 岩淵 郁美(3E)・岩淵 莉奈(3E)
小野寺葉月(3E)・加藤亜理沙(3E)
藤野 亜耶(3E)
- ◎財団法人産業教育振興会中央会長賞 産業技術科 佐藤 寿仁(3F)
- ◎岩手県産業教育振興会長賞 産業技術科 佐藤 裕太(3F)
- ◎全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰
特別表彰 産業技術科 佐藤 寿仁(3F)
ゴールド 産業技術科
小野寺雄治(3F)・小山 伸人(3F)
熊谷 遼太(3F)・佐竹 一康(3F)
佐藤 裕太(3F)
- シルバー 産業技術科
尾形 涼(3F)・小野寺 諄(3F)
小山 翼(3F)・菊池 祥太(3F)
金野 一樹(3F)・高橋 拓巳(3F)
- ◎財団法人消防試験研究センター 岩手支部 危険物取扱者乙種全取得
産業技術科 小山 伸人(3F)・佐藤 寿仁(3F)
佐藤 裕太(3F)

大会結果報告

■バスケットボール部

男子 第58回岩手県高等学校新人バスケットボール競技
1回戦 千厩39-96大船渡東

■バレーボール部

男子 第60回岩手県高等学校新人バレーボール競技
1回戦 千厩1-2盛岡四

女子 第60回岩手県高等学校新人バレーボール競技
1回戦 千厩1-2黒沢尻北

■卓球部

男子 平成24年度全国高等学校選抜卓球大会岩手県予選会

個人 菊地恭兵(2A) ベスト16

■ボクシング部

第24回東北高等学校ボクシング新人大会
ミドル級1部 第2位 大友奨吾(2C)

■剣道部

女子 第55回岩手県高等学校新人剣道大会
団体予選 千厩1-4黒沢尻北 千厩0-5花巻南

■弓道部

第51回岩手県高等学校新人大会弓道競技 団体競技
男子40射8中 女子40射11中

■書道部

第3回大仏書道展 入選 千葉明美(2B)

第32回全日本学生選抜書道展

秀作賞 千葉明美(2B)
第21回国際高校生選抜書展 入選 千葉明美(2B)

■音楽部

第22回岩手県合唱小アンサンブルコンテスト
高等学校部門 A 銅賞 B 銅賞

■吹奏楽部

全日本アンサンブルコンテスト一関支部地区大会

【金 賞】打楽器四重奏
【銀賞賞】金管八重奏、フルート三重奏
【銅 賞】クラリネット三重奏、サクソ三重奏、
管弦三重奏



その他、連盟ごとに各校の役員が集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

生産技術科



農業クラブとは
三年E組 矢尾板祥之

本校の生産技術科は農業クラブに所属しており、年間を通して様々な行事・大会に参加しています。

農業クラブの正式名称は日本学校農業クラブ連盟であり、全国の農業高校生で構成され、約13万人のクラブ員により組織されており、各農業高校の農業クラブは単位クラブと呼ばれ、千厩高校も一つの単位クラブとして活動しています。

毎年全国の所属校による全国大会も行われており、研究活動を発表する「プロジェクト発表会」、スピーチにより自分の農業に関する意見を発表する「意見発表会」、コンピュータを使用した情報処理の精度を競う「農業情報処理競技会」といった競技があります。本校からもこれらの競技に参加しています。

その他、連盟ごとに各校の役員が集まり交流を深めるリーダー研修会も行われ、他校のクラブ員と地域を

越えた交流も行われています。

本校独自の活動としては、毎年5月に行われる校内田植え大会があります。4年前に初めて開催されて以来現在まで続いており、他学科の生徒や先生方も参加し根強い人気のある行事です。

以上、簡単な農業クラブ活動の紹介でした。今後とも上位大会への出場を始め活動を続けていきたいと思っています。



「三冠」に挑戦して
三年E組 岩淵 郁美

家庭科技術検定食物調理二級・被服製作和服一級・洋服一級の三つに合格すれば「三冠」になります。どの検定も、二級と比べて格段にレベルが高く、集中力と正確な技術を求められるものでした。この三つ全てをうまくやれる自信がなく、合格できるか不安でした。

しかし、実際にやってみると、どれも授業を受けていれば合格できるものでした。この事で授業の大切さと、限られた時間で物事をすすめること、段取りの大切さを学びました。最初は「三冠」に挑戦するのが本当に嫌でしたが、自分の技術を高めるとともに、実力を試すいい機会になったと思います。

卒業後は、家庭科技術検定「三冠」取得によって身についた技術と自信を糧に頑張っていきたいと思っています。自分の技術を見極め努力することができれば合格することができます。後輩たちには、自分の力を信じて、どんな家庭科技術検定「三冠」取得に挑戦してほしいと思います。

来年度に向けて

冬の時代

一学年主任



瀧口 千明

年が明けてから、テロ事件が発生するやら例年より真冬日が続くやら暗いスタートとなりました。今年さらには消費税増税が計画されており、未来を担う高校生にとっては先行きが不透明な暗い時代であります。

しかし、だからこそ頑張っていかなければなりません。黙っていれば将来が約束された時代は終わりました。嫌な言い方ですが、頑張った人だけ(勝ち組)が、それなりの報酬を得て、それ以外の人を取り残される弱肉強食の時代になってしまいました。それがいいこととは思いませんが、世界的にそのような傾向になってきました。

野心

二学年主任



関根 道博

二学年最大行事の修学旅行も終わり、いよいよ最終学年だという意識も芽生えてくるはずですが、正直言って、西校舎四階にそのような雰囲気は感じられません。昨日も今日も楽しく過ごし、先のこととは「何とかなるでしょう」と後回し。無理してでも高い壁を乗り越えてやろうという気概もなく、現状の自分で出来る範囲に収まろうという情けなさ。

世界の情勢に目を向ければ、日本の現状が安泰ではないことは誰もが承知のことだと思えます。今の国力で世界と戦えないことは誰もが気付いているはずですが、それなのに、どうして今以上の自分を造り上げようと努力しないのでしょうか。どうして現状に満足できるのでしょうか。「野心」の

暗い話ばかり書きましたが、冬が過ぎれば春が来ます。今がどん底の時代だと思えば明るい時代と思えます。

その中で現一年生は、復興ボランティアにも行きましたし、正月明けすぐにもかかわらず学習合宿にも九十名近くの生徒が参加してくれ頑張ってくれました。早く自分の将来進むべき方向を決めて、それに向けて取り組んでほしいと思います。震災後は全国的にも、若者の気持ちが変化してきているようです。困った人々のために「何かしたい」人々が増えてきているようです。そのため、一生懸命勉強して社会の役に立ちたいという高校生が増えてきているようです。

千厩高校の生徒たちにもぜひそのような思いを持ってもらい、将来は日本のためといわず、世界のために活躍してもらいたいと思っています。

無い若さなど、未成熟な存在が無軌道に転がっている以外のなものでもありません。その先にあるものは、深い谷底か、激流流れる渓谷です。その深みにはまってから抜け出そうともがいても容易なことではありません。「野心」を持って、少し高いところに登りませんか。見渡しのいい景色と美味しい空気、爽やかな風がそこにはあります。谷底に転げ落ちた民が羨ましがって見上げる世界がそこにはあります。

「私の入れる大学はどこですか?」「私でも採用してくれる企業はどこですか?」「専門学校でいいや」こんな「野心」のない言葉を言う者にならないで下さい。あなたが自分に見切りを付けて諦めてしまったら、誰があなたを助けてくれるのですか?自分を造り上げるのは、友達でもなく、恋人でもなく、自分がどう在りたいかという「自分の心」なのです。



<http://www2.iwate-ed.jp/sen-h/> にアクセスすると、千厩高校のHPが見られます。

平成24年度進路決定状況(2/18現在)

※就職進学は進学で集計

| 学科 | 男女別 | 進学 | | | | | | | | | | 就職 | | | | | | 自営 | 進学準備等 | 総計 |
|--------|-----|-----|-----|------|------|-------|-------|--------|----|-----|----|----|----|-----|----|----|--|-----|-------|----|
| | | 国立大 | 私立大 | 国立短大 | 私立短大 | 医療系専修 | 専修・各種 | 省管轄科外学 | 小計 | 受験中 | 県内 | 県外 | 民間 | 公務員 | 小計 | 未定 | | | | |
| 普通科 | 男 | 5 | 5 | 1 | 1 | 12 | 2 | 26 | 22 | 12 | 8 | 20 | 1 | 21 | | | | | 69 | |
| | 女 | 8 | 4 | 1 | 4 | 11 | 15 | 43 | 14 | 14 | 3 | 17 | 2 | 19 | | | | | 76 | |
| 3E 生技科 | 男 | 13 | 9 | 1 | 5 | 12 | 27 | 2 | 69 | 36 | 26 | 11 | 37 | 3 | 40 | | | | 145 | |
| | 女 | | | | | | 2 | 2 | 4 | | 2 | 1 | 3 | 3 | | | | | 7 | |
| 3F 産技科 | 男 | | | | | | 1 | 10 | 11 | 16 | 5 | 21 | 21 | | | 1 | | | 33 | |
| | 女 | | | | | | 1 | 12 | 2 | 15 | 6 | 24 | 24 | | | 1 | | | 40 | |
| 総計 | 男 | 5 | 5 | 1 | 1 | 18 | 8 | 38 | 22 | 24 | 28 | 52 | 2 | 54 | | | | 114 | | |
| | 女 | 8 | 4 | 1 | 4 | 12 | 25 | 54 | 14 | 30 | 8 | 38 | 2 | 40 | 1 | 1 | | 110 | | |
| | 計 | 13 | 9 | 1 | 5 | 13 | 43 | 92 | 36 | 54 | 36 | 90 | 4 | 94 | 1 | 1 | | 224 | | |

編集後記

▽毎号ご寄稿いただき、

楽しみに読ませていただいている校長先生のお話は、「ほめる」ことの大切さを説かれている。ほめられた方が学習効果が上がることが証明されているのだそうだ。ただし、「叱る」ことがあって、「ほめられる」ことの値打ちが判るともいいます。そして現在の親に求められているのは、本気で「叱る」、本気を言葉にすることだとなる。

▽PTA震災支援事業として、高田高校野球部「100キロボランティアアウォーク」のバックアップの記事、私も10年以上前、中2の親子レクで高田の長部港まで37キロを歩いたが(5時発16時着)、さらに50キロを2日というのは日ごろ鍛えている野球部員といえ、過酷な体験であつたらう。本当に僅かの段差に足が上らなくなるのである。しかし、この100キロ歩き切った事実、指導の先生の狙い通り、生涯に渡り子どもたちの自信となる。来年度は本校の生徒も一緒に活動させたいということが、是非体験させて欲しい。

▽「31号」に放射能汚染の対応について書いたが、先日雨水を暗渠処理しているところで2マイクログシベルト(通常この辺りは0.1マイクログシベルト)という10倍以上の数値を検出したところがあつた。放射性物質は無くない。成長期のことももつ親として関心を薄れさせてはいけない。

▽何時もおまかせになる千葉、遠藤両先生に改めて感謝し、本年度最終号の編集を終える。会員の皆様1年間ご愛読ありがとうございました。

広報委員 佐藤洋一郎